

林業体験プログラム 「森で学ぶ」

林業体験プログラム「森で学ぶ 2017」を開催しました。

2017年5月中旬、宮城県大崎市鳴子温泉「エコラの森」にて「森で学ぶ林業体験プログラム 2017」が行われました。

「森で学ぶ」プログラムは、日本の近代農業へ、問いや疑問をもつ自然学校や日能研スタッフの話し合いに、端を発しています。大規模化や効率化を掲げ発展してきた近代農業。現状、自然環境や生態系との調和をおきざりにして、持続可能（SD）とは程遠い産業になっています。「資源は無限にある。成長に限界はない」と信じてきた20世紀の大量生産・消費型の世界が農業にそれを求めてきたともいえるでしょう。

現在多くの学校が、学校プログラムの中で農業体験。言い換えると、近代農業の一部分の体験を行っています。はたして、それらの農業体験は本当の意味で学びにつながっているのでしょうか？そこから学べることは何なのでしょう？

実際、私学の先生に話を聞くと、「農業体験ではなく、農家体験になってしまう」や「1日、2日行くだけでは、幅広い繋がりを理解するには足りない」とお話になる先生が多いのも事実です。

そんな中、自然学校・日能研スタッフが中心となり「学校関係者を森に連れていき、森で学ぶことの可能性について考え、話し合う場をつくらう！」となり今日に至ります。

今回は、学校関係者・環境教育団体・日能研職員など様々なフィールドから参加者が集いました。そして、伐倒、馬搬、木工、チェーンソウ講習と、様々なプログラムに取り組みました。

参加者同士の対話で、キーワードとして出てきたのが「択伐」です。200年後の森を想像し伐倒する木を選択すること。また、選んだ木を倒すことで、その森にどんな影響があるのか？どんな森になるのか？を考えることの意味について、大人同士、森の中で話しこむ姿が印象的でした。対話はさらにひろがり、良い森とは一体何か？誰のための良い森なのか？など、しばらく続きました。

次回、森で学ぶ林業体験プログラムは、10月～11月ごろの予定です。興味のある方は、日能研本部子ども未来進学センターまでお問い合わせください。

<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL : 045-473-2311 / FAX : 045-475-0544 / e-mail : pr@nichinoken.co.jp

